

地域医療連携センターニュース

公立阿伎留医療センターは、医の心を重んじ、患者の生命と健康と生活の質を考える良質の医療を実践し、地域医療の最適化に努力します。

発行 地域医療連携センター

電話 042-558-0321(代表)

FAX 042-550-5190(直通)

常勤医による婦人科診療開始のお知らせ

産婦人科（婦人科担当部長） 高田 眞一



平成 30 年 9 月から産婦人科の婦人科担当部長として高田眞一（たかだ しんいち）が、10 月から婦人科担当医長として仲尾岳大（なかお たけひろ）が赴任しました。これまでは、産科部門は井上部長のご尽力で外来・入院・分娩診療が行われていましたが、婦人科部門は非常勤医による外来診療のみで、手術が必要な場合は近隣の大規模病院への紹介を余儀なくされてきました。

10 月からは、婦人科担当の常勤医による外来診療が毎日あり、手術などを含む入院も可能になりました（表 1）。

二人とも、産婦人科専門医とがん治療認定医の資格を持ち、さらに高田は婦人科腫瘍専門医を、仲尾は細胞診専門医の資格を有し、婦人科手術を多数経験しています。

ところで、当センターは、あきる野市、日の出町、桧原村の子宮がん検診指定医療機関であるため、一次検診のほか、二次検診（精密検査）ではコルポスコピー検査を行ってきました。今後は、一次検診では液状細胞診（LBC）を活用することで、より正確で患者負担の少ない検査診断が可能になります。さらに、組織診などの精密検査依頼を積極的に受けるため外来診療枠の拡張を予定しています。

婦人科担当部長の高田は、これまで 4 つの大学病院で 30 数年間、医局長、病棟医長（産科・婦人科）、外来医長、診療科長（婦人科・産科）を務め、前任地では 15 年間に執刀・指導を行った手術は、開腹手術 2815 例、腔式手術 645 例、悪性手術 1005 例を数えます。

当センターでも、婦人科手術（表 2）を主に行いますが、前任地同様に表 3 の項目に留意して手術します。新しい器具を導入するとか、先進医療手術を行うとか、臨床試験や治験を行うということではありません。目標は、安全で確実な婦人科手術を実行し、社会復帰が早期にできることにあります。

ただし、残念ながら、医師数からの制約があり、緊急手術や進行浸潤癌の手術、内視鏡手術は行えない現状をご理解ください。

近年、日本国内では「少子・高齢化」が社会問題となっています。産婦人科では、「少子」は分娩施設の激減という側面も併せ持ちますし、「高齢化」では介護問題、税負担などのほかに、介護を必要とする高齢婦人の増加が指摘されています。

さらに、高齢婦人の疾患に対応できる施設が地域レベルで少ないのが現状です。当院婦人科外来では、意識ある高齢女性なら、車イスやストレッチャーでの搬送であっても、受診可能です。ぜひ地域医療連携センターにご相談ください。

（裏面に続く →）

また、2020年には女性の半数が50歳超であるため、産婦人科外来受診の半数以上が閉経女性になると推定されます。つまり、「閉経後女性の健康管理」も外来診療の主軸の一つになります。わが産婦人科外来では「閉経後女性の健康管理」と「高齢女性診察」への対策も構築されつつあります。今後、地域の皆様のご要望にお応えすべく努力してゆきたいと思っております。

表1 産婦人科診療と手術日

	月	火	水	木	金
婦人科外来	仲尾岳大 大山俊雄★	仲尾岳大 大山俊雄★	高田眞一 吉村 理★	高田眞一 大山俊雄★	高田眞一（9：30まで） 工藤一弥★（10：00から） 吉村 理★
産科外来	井関 隼★ 中金 朗子★ （第1,3,4週）	吉田 純★ （第3,5週） 鈴木 僚★ （第1,2,4週）	井上千賀子	井上千賀子	井関 隼★
婦人科手術	高田 仲尾				高田 仲尾
帝王切開	井上 他	井上 他	井上 他		

★は非常勤医師

表2 婦人科手術一覧

開腹手術	子宮筋腫（筋腫摘出術、子宮全摘術） 卵巣腫瘍（卵巣嚢腫摘出術、付属器摘出術）
腔式手術	子宮頸部高度異形成・上皮内癌（レーザー円錐切除術） 骨盤性器脱（子宮脱根治術、腔閉鎖術） バルトリン腺膿瘍（膿瘍切除術、開窓術） 外陰尖圭コンジローマ（レーザー蒸散・焼灼術） 外陰血腫（血腫除去術＋ドレナージ）
できない手術	進行した婦人科癌（子宮頸癌、子宮体癌、卵巣癌） 緊急を要する異所性妊娠（子宮外妊娠） 腹腔鏡手術、子宮鏡手術

* 子宮脱根治術：腔式子宮全摘術＋膀胱底形成術＋肛門挙筋縫縮術

表3 婦人科手術を行うにあたっての留意点

# 1	できるだけ腹壁の切開創は横切開、
# 2	術後早期に歩行開始、
# 3	腹壁の切開創は真皮縫合なので抜糸はない、
# 4	術後4～7日で退院、
# 5	出血量を少なくする工夫をしている、
# 6	自己血貯血・輸血も行う場合がある
# 7	円錐切除術は2泊3日、ホルミウム・ヤグレーザーを用いる

放射線科赴任にあたり

放射線科部長 謝 毅宏



2018年10月より公立阿伎留医療センターに赴任し、放射線科部長を拝命致しました。放射線診断専門医として、CT(Computed Tomography)やMRI(Magnetic Resonance Imaging)を中心とした検査及び画像診断に関わってまいります。

X線CTは、1972年に英国EMI社のG. N. Hounsfieldによって世界初の実用装置(EMI-Scanner)が発表されました。その後装置は進歩を遂げ、特に1998年のMDCT(Multi-detector Row CT、多列検出器CT)発表以降、技術革新が進んでいます。また、1973年に登場したMRIは、1980年代に入って実用化が始まり、こちらも現在まで高磁場化、高速撮像法の登場、拡散強調像の応用、アプリケーションの多様化など進歩を遂げています。

今日、CT及びMRIは病気の診断に非常に重要な役割を担っています。消化管に対しては内視鏡や消化管造影に劣る面があるものの、他の多くの領域で存在診断、質的診断、進展範囲の評価、リンパ節転移や遠隔転移の有無など、腫瘍の病期診断にはなくてはならない検査となっています。MRIではMDCT以前よりMRA(MR angiography)が行われていましたが、MDCTの登場によりCTで脳血管や心臓(冠動脈)を評価できるようになりました。また、CTは大動脈解離、肺血栓塞栓症、急性腹症、外傷などの救急疾患、肺炎やびまん性肺疾患など肺疾患の診断にも非常に有用です。MRIは高いコントラスト分解能により、脳、脊椎・脊髄、子宮及び付属器、骨関節などでCTよりも多くの情報が得られることが多いです。さらに、スクリーニングとしても日常診療の場で多数のCTやMRIが施行されています。

一方、装置の進歩によって検査で得られる情報が以前と比較して増加し、画像診断に高い質が求められています。また、検査件数も増加しています。CTにはX線被曝、MRIには撮影に比較的長時間がかかるといったデメリットもあり、検査の最適化が必要です。このような点から、放射線診断専門医としてよりよい検査と画像診断を行い、他科の医師と連携して、患者の利益向上をはかりたいと思っています。

現在、当センターでは近隣の病院・診療所様からのCTやMRIなどの検査依頼を積極的に承っておりますので、ご依頼の程よろしくお願い致します。

【CT・MRI・RI・骨密度測定等のご予約方法について】 放射線科長 花岡 明

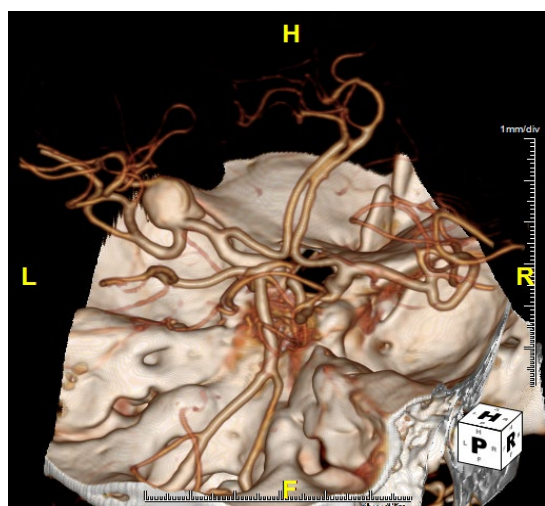
画像診断をご希望される方は、ダイレクトに放射線科でご予約を承ります。専用の申し込み用紙がございますので、ご送付のご依頼は、下記電話番号へご連絡下さい。

ご予約は放射線科にお電話いただければ、(042-558-0321 内線2200)空いている日時をご案内いたしますので、決定後に申し込み用紙をFAXしてください。(042-558-0571 放射線科直通)

複写になっている予約票を診療情報提供書と共に患者さんにご持参いただくようお願いいたします。読影結果は遅くとも1週間以内に郵送いたします。また、フィルム、CD-Rをご希望の方には当日患者さんにお渡しします。先生方からのご紹介をお待ちしております。

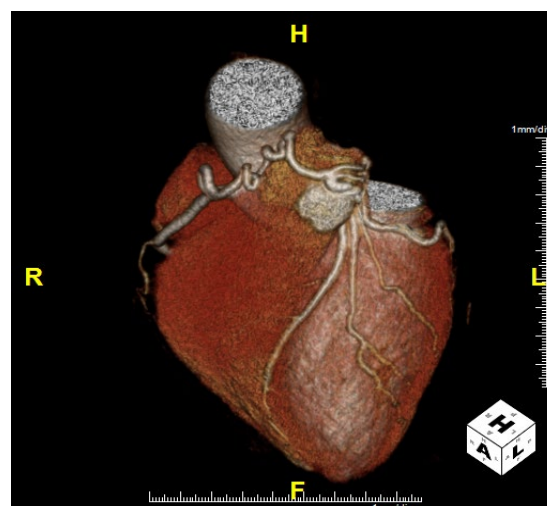
(裏面に続く➡)

CT血管造影による症例



左中大脳動脈瘤

左中大脳動脈に径 12 mm 程度のブレブを伴う動脈瘤が認められる。



冠動脈肺動脈瘻

右冠動脈から分岐する異常血管があり、拡張蛇行しながら肺動脈幹の前面に流入している。

年末年始の診療体制について

当医療センターは年末年始（12月29日（土）から1月3日（木））の期間は外来診療を休診とさせていただきます。

本年は連休期間中の臨時開院は行いませんので、ご了承のほどお願い申し上げます。なお、連休中の救急診療体制につきましては通常通り実施いたします。宿日直表等については、後日改めて送付させていただきます。

◆年末年始の外来診療

日付	28日 (金)	29日 (土)	30日 (日)	31日 (月)	1日 (火)	2日 (水)	3日 (木)	4日 (金)
	診療	休診	休診	休診	休診	休診	休診	診療

地域医療連携センターニュースの内容などについて、御意見、御助言等がございましたら蓑島（副センター長・看護師）、神田（事務担当）までお問い合わせください。

電話 042(558)0321（代表） FAX 042(550)5190（直通）